

# Vascular Street

新春  
特集

## サグラダファミリア 彫刻家 外尾悦郎氏と語る

*Team Fighting against Heart Disease (TFHD) Conference バルセロナ*



**TFHD Conference**  
 Team Fighting against Heart Disease *in Barcelona*

Date : August 27th, Barcelona 19:30 to 21:00  
 Meeting place : Gilda by Belgitous Carrer Ample, 34 08002, Barcelona

**Session 1** Chairman Prof. Kenji Sunagawa  
 19:30~19:45 Center for Disruptive Cardiovascular Medicine, Kyushu University  
 「HDL function and Atherosclerosis」  
 Satoshi Imaizumi, MD, PhD  
 Clinical Research and Ethics Center, Fukuoka University School of Medicine

**Session 2** Chairman Prof. Keiji Saku  
 19:45~21:00 Dean, Fukuoka University School of Medicine  
 「命の大切さを考える 芸術する心と体 パート2」  
 彫刻家 外尾悦郎氏

**Discussors**

Satoshi Imaizumi, MD, PhD	Clinical Research and Ethics Center, Fukuoka University, Japan
Kenji Sunagawa, MD, PhD	Center for Disruptive Cardiovascular Medicine, Kyushu University, Japan
Keita Saku, MD, PhD	Center for Disruptive Cardiovascular Medicine, Kyushu University, Japan
Yoshinari Uehara, MD, PhD	Sport Medicine, Fukuoka University, Japan
Keiji Saku, MD, PhD	Cardiology, Fukuoka University, Japan

主催：福岡大学医学部 心臓・血管内科学、先進循環器病治療研究会、NPO法人臨床応用科学

はじめに

毎年、欧州心臓病学会 (ESC) と同時に開催する先進循環器病治療研究会 (TFHD カンファ) では、欧州各国の超一流のサイエンティストを招待して特別講演をお願いしています。今回の ESC 開催地はバルセロナ。バルセロナといえば、現地で活躍する彫刻家、外尾悦郎氏に、「命の大切さを考える。芸術する心と体 パート2」のトークをお願いしました。外尾氏は、以前私が主催した学会の公開講座にお呼びしたことがあります。その時の口約束でしたが、バルセロナでの研究会に喜んで参加していただきました。ご自身が彫刻したサグラダファミリアの「生誕の門」で待ち合わせして、サグラダファミリアを詳細に説明していただき、福岡大学、九州大学の若手医師相手に命の大切さと物事に取り組む姿勢を熱弁していただきました。ここに Vascular Street 特別企画として外尾氏とサグラダファミリアを紹介します。外尾氏は福岡市出身、福岡高校卒業で、Vascular Street は 2 回目の登場です。

朔 バルセロナのランブルス通りに行ってきました。8月17日、観光客などで賑わう通りに車が突っ込み、次々と歩行者をはねました。少なくとも13人が死亡し、100人以上が負傷しました。それより数時間前、バルセロナから南西に100キロほど離れた場所で家屋が爆発、1人が死亡したそうです。過激派組織「イスラム国」(IS)の戦士

が攻撃を行ったと伝えてあります。ランブルス通りには、お花や蝋燭が本当にたくさん飾られてました(図1)。

外尾 実をいうと、サグラダファミリアも狙われていて、100個のガスボンベが用意されていて、さあ、実行に移すぞという時に、自分たちで失敗したようです。そのような危険は常にあります。でも、ここは135年間作ってます



図1 お花や蠟燭が捧げられたバルセロナの通り

けど、死亡事故はないですね。ガウディが一生懸命守ってくれているのでしょうか。サグラダファミリアは、ガウディが作り始めて、日本人によって完成させてもらったのです。これは昔の写真ですが、何もないでしょう。それにこんな高いところに上って彫っていました(図2)。危険だと思いませんか？

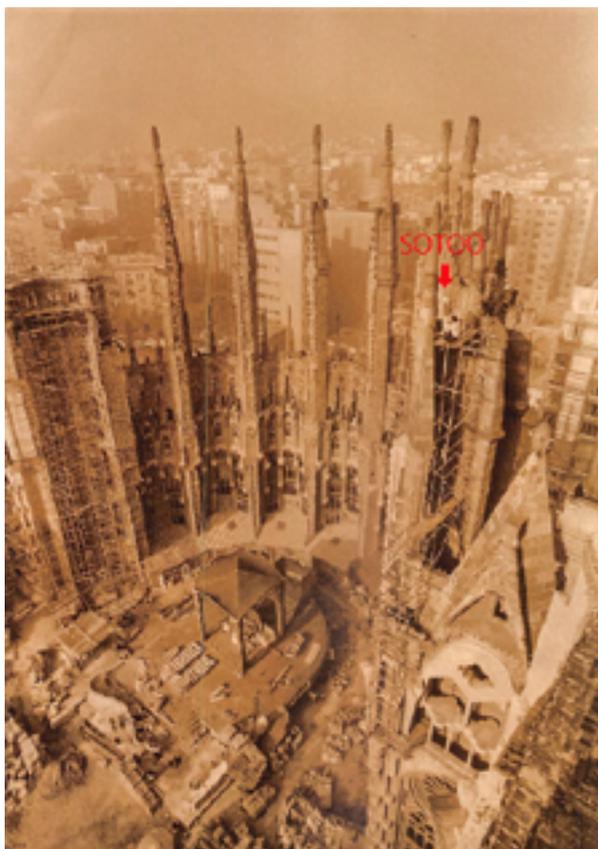


図2 ガードがない所で工作中的の外尾氏

朔 生誕の門(図3)は、外尾先生が全部創ったの？

外尾 いや、ガウディがおおむね創ったのですが、真ん中だけは出来てなかったんです。当然、地元の彫刻家がやる予定で、下の3賢人や羊飼いとかが作り始めたんですけ

ど、ガウディのイメージと違う。3賢人の2人は双子みたいな顔をしているでしょう(図3左下)。3賢人はね、お供をつけているから6人あそこになきゃいけないのです。単純に3賢人だから3人置いたら、大きすぎて他の彫刻と合わないんですよ。顔も同じものを作るしね、それで僕に白羽の矢が立って、残りは僕がやったんです。1985年に最初に作ったのですが、その年に、当時の皇太子殿下、現在の天皇陛下と美智子皇后をご案内した時に、美智子妃皇后が深く喜ばれました。僕がハーブの説明を偉そうにしたんですね(図3中央右)。

朔 美智子妃皇后はハーブを弾かれますよね。

外尾 そうなんです。僕、それを知らなくてね。次の日の新聞に出たのですが、その付録として美智子妃殿下がハーブを奏でている写真もあって、それを見てびっくりしました。あの時、お二人、本当に手をつなぐような感じ。普通の夫婦をされてましたね。

朔 彫刻といっても、あそこに登って石を削るんですか？

外尾 もちろん。あのハーブは(図3中央右)、9トンの石を5トンにしたんです。3メートルありますよ、あのハーブの柱。

朔 そんな石の塊をあそこに上げるんですか？

外尾 そうです。ある程度作っておいて、周りの部分は設置した後に仕上げる。だから、おおむね彫っておいて、うまく仕上げる。でも、1985年頃は、誰も見向きもしなかったですよ。僕がトントンやってると、あれ、何やってるの、まだできてねーのか、みたいな感じでね、旅行者も少なくて。

朔 昔から多いように思いますが、そうなんですか？

外尾 いやいや、2012年頃からです。5、6年前ですよ、こんなになったのは。ハーブが右、ファゴットが左にあります(図3)。最初はね、予算が全くないものですから1個ずつ作る。うまくいったら次もやれよと、お金が来るわけです



図3 生誕のファゴット

ね。子供たちの彫刻もあのあるところ作って、2000年に完成した。2000年というのは20世紀の最後のクリスマスなんです。いつまでたってもできないと非難されているので、20世紀には生誕の門は完成したことを言いたくて。そして、最後に門扉を完成した。全部ブロンズです(図4)。



図4 門扉(慈悲の門)

**朔** この生誕の門の扉のデザインは、ガウディが設計図や絵を描いていたとか、そんなわけじゃないのですか？

**外尾** そこが、20世紀の人間がみんな間違った教育を受けているのです。特に日本人はね。何かを作るときには完全な図面がなきゃいけないと思う。それは、完全に教育の間違いです。だって、長い人類の歴史の中で日本家屋の大工さん、棟梁ができてもしないのに棟上げ式をやるのは大切なことですよ。それはガタイがあるからなんです。その後、板をつけるとか、畳を敷くのは、もう後の仕事です。つまり、住んでいる人が完成させていくレベルに入っちゃう。中世から、家、建物、建築というのは、住んでいる人が作り続けるのが当たり前なんです。今の人間は完成したものを買って、使って、捨てていく、ほぼ50年位、そんな考え方なんです。それ以前は、手に入れたものは自分のものと思いながら自分が育てていく感覚ですよ。着る物にしても使い捨てはなかった。代々、娘から孫へ、受け継ぐ。

そういう考え方が普通のはずですが、近代で全部変わった。だから、私たち現代が間違っているのです。

**朔** ガウディ作品には図面や設計図はないのですね。

**外尾** ガウディの図面はないですよ。職人達と共通にコミュニケーションする模型があります。その模型も、これを作れというのではなくて、要するに見て、どの部分を見てもね、美しいんですよ。職人は、「こんな複雑な、こんな綺麗なものを俺になんか出来ない」かもしれないけど、作ってみたいと思わせる形を敢えて見せている。それで、目がキラッと光ったら、もうそれから後は任せちゃう。お前やれ。「でも、こんなのできないよ」と言うのだけど、そこでちょっとずつヒントを与えながら職人にやらせた時、その職人はできないと思っていたものが、美しくできちゃう。その時、もうこっちのものです。家に帰っても、ご飯を食べている時も仕事のことを考えてますから。現代は合理性、お医者さんは合理性が全くないですよ。30時間働いたりして。それにちょっと近いと思いますが、給料もらうためにやるんだったら、どんどん手を抜くはずですよ。「これは僕の時間だから」と言ってね。だから、仕事する時、8時間ということで一生懸命やるか？ですが、給料のためにやっている人はそうではない。ところが、これは面白いと思って、自分ができるんだ、何とかな、ガウディが渡していたのは安い給料ですが、もっと本来の給料である希望を渡したんです。俺にもこんなものができると思った職人は絶対ついてきます。ずっと朝から晩まで仕事を考えて。お金をいくら払っても払い切れないぐらいの仕事をしてくれます。自分の仕事だけ考えるのではなくて周りのことを考えはじめます。いい仕事をするために。喧嘩もしない。自分と関係ない何かが起こっても飛んで行って助けてあげる。そういうチームワークができてくる。それはね、今、合理性を求めて仕事をしている社会が一番気づかなければいけないポイントです。

**朔** まったく合理性と逆のことですね。本当の合理性はどこにあるのかということを見つけておかないといけない。素晴らしいね。

**外尾** この扉彫刻にしても僕が全部決めていったのです。ヒントを一生懸命ガウディから探すけど、探しても、探しても見つからなかった。扉のデザインをどうするか。何もなくて。この扉(図4)、ものすごく評判いいですよ。上には生まれたばかりのイエスがいて。その扉の位置というのはその横もしくは下ですよ。どこで生まれたかを考える。要するに、ヒントは子供のように考えることです。子供のように考えたら答えが出た。なぜかと言うと、ガウディも子供のように考えたと思います。ガウディがやろうとしたこと、全部そうです。それを今の若い建築家たちに言ってますよ。無限にアイデアは出てくるよって。

ガウディが死んだから、ガウディの図面がないからおびえるなど。無限にガウディがやろうとしたものがみえてくるんだから、その姿勢を身につけると。例えば、生まれたばかりのイエス。決して、衛生上よくない、病院ではない、馬小屋で生まれた。草があれば虫もいるはず。それで十分です。あとは、時代にあった植物を探せばいい。探してみるとね、カタローニャでは、ツタが慈悲なの(図4)。実はね、ツタはこちらでは夫婦の象徴です。根がほとんどないにもかかわらず強いでしょう。つまり、お互いに支え合っている。ツタには虫がたくさん隠れていて、その虫を取りにトカゲとか小動物とかネズミとか来て、要するに小動物や虫たちをかかまってる(図5)。



図5 門扉には虫がいる

朔 あー、これ、虫。なるほど。カブトムシ。えー。

外尾 子供たちはここで遊ぶんですね。これは僕の目的だったのね。子供達が、これを見たとき、トカゲが中に入りたいよと言っているようです。

朔 これはブロンズですか。

外尾 はい。アルミでもステンレスでも磁器でもよかったですけど、なぜ、僕がブロンズを選んだか？ こういう色の付いたブロンズは世界にないのです。ブロンズを酸化させるんです。硝酸塩など、酸によって、全部出てくる色が違うんです。緑も赤も全部ブロンズが出した色です。これを傷つけるとね、周りから緑にどんどん変わっていきます。

朔 そんな色も出るんですか？

外尾 はい。黄色もです。難しいのは黄色と青と白。ロウを使って、中に色を染み込ませる、黄色が出てくるようにイレズミするのです。緑は何もしなくて勝手にできますから。全部ロウを塗って、もう、いろいろなことをやりましたけど、やっぱり、昔ながらの方法が一番です。ただ、これだけ色が出ているのは世界にないですね。それから、生誕の門の両脇にあるのが、海亀と陸亀です。雨どいなんですね。降った雨がここに集められて、亀の口から出

るようになってます。だから、ガウディは機能と構造と象徴を深く考えてます。今、構造科、意匠科とか、いろいろと建築科の中でも完全に別れてますけど、お医者さんも専門性でわかれているでしょう。でも、それを一つの答えで全部解決する。雨どいであり、柱を支えるための台座として、また、安定するためにです。建築はゆっくりと、でも、休まずに亀が歩くように作っていくことですね。だから、象徴と機能と構造が重要。先ほど合理性の話をしましたが、現代は合理性を求めために分解していくのです。分割していった時に、僕は専門の医者でもないのと言えないけども、分割すればするほど建築もわけわからなくなる。ガウディはその全体を見渡せる人間でした。何を求めていくべきか、そこにはすべての答えがあるんです。一つの答えですべてが解決する。

朔 そんな医療があったらいいですね。しかし、それは医療の世界には難しいかもしれない。

外尾 ここは希望の門ですが、赤ん坊をローマ兵が殺しているんです(図6)。皆さんショックでしょうけど、この死んでる赤ん坊、本当の赤ん坊なんです。この奥に病院があって、ガウディの友人であったその当時のお医者さん、病院長で友達だから、赤ん坊が死んだら、教えてくれと。完全にインモラルですね、今。やっちゃいけない。死んだ赤ん坊、その死んだばかりの赤ん坊をこういう形に寝せて、石膏取りして、それを石に彫ってます。とんでもない悪をローマ兵のモデルにしたりして。だから、ものすごくリアリティがある。その殺戮を逃れるためにエジプトへ行こうとして夜中に天使がジョセフを起こすんですね。今すぐに行けと。



図6 門扉(希望の門)

朔 あー。それで、その扉はエジプトの植物ですか？

外尾: いや、カタローニアのアヤメですね。トマトとか胡瓜とか、農家の人たちには大事な植物です。川辺に咲いていますから。で、トンボとか色々います。実はね、よく誰も見ないですけどね、この扉の裏ですが、魚に変わるんです。

魚が飛び跳ねてるように見えます。というのは、ヨセフが天使に起こされて、幼児虐殺から逃げろと言われたときに、荒野を越えなければいけないんですね、エジプトまで。それで、夜中に貧しいヨセフが赤ん坊を抱いたマリアを連れて行くのに、勇気が要るでしょう。勇気はどこから生まれたかという希望から生まれました。で、エジプトの海を想定するわけ、エジプトの海に届けば我々は救われる。荒野を越えていけばですね。ところが、ヨセフが思い描いた海まで逃げる、赤ん坊一人を救う、一人の赤ん坊を育てる、つまり、イエスを救ったおかげで世界が救われる、一人の小さなお父さんの希望は世界の希望になりうることをここで言いたかったのです。

**朔** でも、この扉だけでもすごいお金がかかったんじゃないですか？

**外尾** かかりましたね。でもね、やっぱりその予算も見ながら。裏もね、金の葉っぱがあるでしょう。あれはパブロ・カザルスの鳥の歌の楽譜があるんですよ。鳥の歌なんです。そういう音楽を知っている人は、メロディが浮かんでくるんです。

**朔** この教会の中に入っていきます。教会の中のステンドグラスは、専門の作家さんみたいな人がおられるのですか？ ガウディと雰囲気が違うように感じますが。

**外尾** ガウディのアイデアを知らない場合もありますね。今、素晴らしいと思われているけども、反対側の門もそうですけども、正しいガウディのアイデア、つまり、レオナルドダヴィンチが500年前に考えたことって今にならないとわからないことが沢山あります。水を吸い上げるポンプとか、ヘリコプターとか、潜水艦とか作っちゃいましたけど、でも、500年経たないと分からないもの。それは、やっぱり大事に残しておかなきゃいけない。何年も経たないと分からないことをガウディは考えていたんです。それを今無視しちゃいけない。でも、無視してるところもありますね。

**朔** 天井や柱は非常にモダンですよ。

**外尾** そうですね。この柱には、ガウディは天使を巻き込んでいるはずなんです。急ぐということが人間がやる一番の間違いですから。この教会の柱は完璧に作られて、柱と柱の距離が全部7.5mなんです。メートル法というのはナポレオンの時代に作られましたけど、昔はみんな1歩を中心にやっていたんですね。基本数値を発見するきっかけが僕なんです。元の僕の職場で修復をしていたときに、全部寸法が決まっていたのです。そのころちょうどコンピュータができたので若い建築家たちが色々な寸法を測りました。一番小さい柱が15m、7.5の倍。この大窓は22.5mで3倍、この屋根は52.5mの7倍、12倍すると入ってきた時から奥までの90m、45mとか、全部7.5の

倍数で全部作られていた。だから、日本の畳と一緒にですね。そうすると、ものすごく作りやすいです。

**朔** いや、この柱は石を積み重ねていくんですか？

**外尾** これは急いで作っているもんだから中は鉄筋コンクリートなんです。まわりに石を置いてるだけ。鉄筋はね、本当は入れちゃいけないけど、現代の建築法が鉄筋を入れなければいけない。法律がまったくバカバカしいのは、その時の時代に流されちゃう。今の時代で200年、300年持つものを作ることを建築工法の中に義務として入れると大変なことになっちゃうんですよ。だからね、今、建築方法というのは50年、100年が限界です。というか、人間の時代の流れ、価値観の流れですね。

**朔** そうでしょうね。大学の建物もね、40年が建物の区切りです。

**外尾** 教会のステンドグラスに長崎の名前があります。バラ窓のその7時方向、7時方向にタマネウラと。あれは本当は玉之浦。玉之浦というのは長崎の古い地名です。当時はここで殉教者が、この前もカトリックの殉教者が何十人も、二十六聖人もいますけども、カトリックの殉教者が出たということで玉之浦が長崎を代表して出てきます。世界中の殉教者の都市の名前が書いてあります。この教会を作るときに、最初のガウディの基本構想は、「朝7時の光がいつも入る森のような教会を作りたい」です。ガウディは貧しく生まれて、生涯病気だったんですね。だから、いつも歩いてないといけません。山歩きして、朝7時の光がとっても好き。建築家として教会建設を頼まれるのは最高の荣誉ですね。偶然若いガウディにそういう仕事を頼まれた。教会のこちらは地元の彫刻家で作ったものです。ガウディのデザインはあったのですが、全部無視してますね。ただ、賛否両論。ガウディのアイデアを知らない人はモダンでいいじゃないかと言います。日本人も、世界の人たちもありがたく思ってる。でも、ガウディのアイデアを知らないからです。人を騙して名をなそうという根性は世界中に蔓延してますけど、ここにもそれがある。



教会は人を作るためにあるものだから、こういうやっちゃんいけないことを我々が気づけばいいですよ。ところが、いつも世の中は無知が優先しますから残念です。教会の聖書が、全部大切なんです。どの言葉も、言葉だけ切り取って、そこだけを大事に思うというのは、これは素人の考えです。全部が大事です。アイデアがないとそうなります。

**朔** 外尾先生の仕事場は、どこなんですか？

**外尾** 回廊の建物です。旅行者は入れない。だから、僕らの仕事場から旅行者は見えませんが、旅行者の真横で仕事をしているなんて事は誰も知らないです。

**外尾** ここは、ガウディの作った唯一の内部空間ですね(図7)。全部破壊されました。スペイン内戦で。図面は無いですけども元に戻してくれというのがガウディの希望だったと思います。ここが僕の仕事場で、この柱を作っているときに、本当に見事にコンパスで測って一定にできているので、もしかしたら、ガウディは幾何学的に全部寸法を考えてやったんじゃないか。それで、基本数値が出てきました。直径の10倍がこの柱の長さだったり、この複雑な形、コンパスで全部出てくるんですね。バラがいっぱいありますけど、バラの葉っぱも、壁面も、小中大で一つのコンパスで全部描けるんです。これ、砂岩ですけどね、貝殻が入っているんですよ。柔らかい石の中に固い貝殻が入っていると、滑らせるとまた掘りすぎちゃってね。ところが、旅行者がこんな持っていっちゃうんですよ。上の方をさわれないからいい。まあ、思い出深い仕事場です。で、ホアンパブロ上皇が来られる休憩所にしたのです。本当に、ガウディがやりたかったメッセージを理解するのがこの仕



図 7

事なんです。ガウディの遺言で、暴力、テロリズム、そしてお金への誘惑に負けたらこの教会はできないよということ。まさしくそうですよね。

**朔** 今、実際に彫刻をやっている人はどんな人ですか？先生が40年前に来た時、どんな人がされていました？

**外尾** 1936年、スペイン内戦でこれが破壊されたんです。それでストップしてたんですね。1950年ぐらいから本当に2、3人で再開して、僕が1978年に来たんですけど、そのころ彫刻家はいなかった。石工が、当時、ひどいものを作っていた。彫刻が必要だということで、多分良いタイミングで飛んで火に入る虫状態で、最初からすごい仕事をまかされて。40年間の僕の仕事の集大成の本が今度できました。先生にプレゼントします。本はバーコードつけないと売れないですね。バーコードをあえてつけてないのです。コマーシャルとお金のマーケティングの中に落とし込まれたら、踊らされる。それにどうしても僕は入りたくなくて。



### Prof. Saku's Commentary

バルセロナでは、デジカメを撮る人がアントニーと言ってね、撮られる人がガウディと言うそうです。そうすると、よく撮れるとのこと。ガウディというのはラテン語でガウディール、エンジョイということ。いやはや、外尾先生のコメントの一つ一つが深く、長く、重く刻み込まれました。福岡大学循環器内科と九州大学循環器内科の若手研究者(10人)が同席しましたが、外尾悦郎氏の人間性と戦う姿勢に驚愕した様子でした。バルセロナの土壤も、彼を醸成していったと感じるものもありました。スペインが大好きになりました。